

令和7年度 第1回ホーム東保地域連携推進会議 議事録

開催日時	令和8年3月19日(木) 15時～16時
開催場所	グループホーム東保
出席者 (計8名)	<p>地域の関係者 1名(地区担当民生委員) 自治会長急用のため欠席</p> <p>市町村担当者 1名(砺波市障害福祉課)</p> <p>利用者 2名</p> <p>利用者家族 1名</p> <p>施設職員 3名(施設長、管理者、支援員)</p>
協議内容	<p>1 施設長挨拶</p> <p>2 構成員の紹介</p> <p>3 議題内容、説明</p> <p>○地域連携推進会議について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の方と地域との関係づくり、施設等やサービスの透明性・質の確保、地域の方への施設等や利用者の方に関する理解の促進、利用者の方の権利擁護と地域の皆さんと共に開かれたグループホームを目指す。</li> <li>・構成員の方との情報共有・意見交換、施設訪問を通し、利用者の方への理解を深めるとともに、事業所の環境や運営の確認を行っていただく機会にする。</li> <li>・利用者の方にとっては、質の高いより適切な支援を受けられる効果や地域の方との連携を深める機会とする。</li> </ul> <p>○知的障害、グループホームについての説明</p> <p>○支援員、世話人の業務について</p> <p>○日中活動場所について</p> <p>○食事について</p> <p>○休日の過ごし方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の方は、週末に帰省されている方、ホームで過ごす方といろいろな過ごし方をしている。日中は、支援員が常駐していないため利用者のみで過ごしている。</li> </ul> <p>○会議・研修に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2ヵ月に1度、グループホーム担当職員と世話人で支援、環境整備、悩みの相談等の会議を開催している。また、半年に1度は虐待防止チェックリストを記入し、その機会を利用して支援の振り返りを行っている。</li> <li>・そのほか、支援する職員は、障害者基礎研修や虐待防止研修等を受講して、支援の質の向上に努めている。</li> </ul> <p>○緊急時の対応について</p>

・年に3回避難訓練を実施し、内訳は、火災想定が2回、洪水想定を1回実施している。

○感染症の対応について

・感染症が出た場合は、グループホーム内では居室で過ごし、食事各居室で食べていただくようにしている。

入浴、洗面、歯磨き等も時間を決めて、できるだけ他の利用者の方との接触がないように努めている。

食卓には簡易的な間仕切りとして、アクリル板を置いて食事をしていただいている。

○BCP（業務継続化計画）について

・自然災害や感染症の流行などの緊急事態が起きた際に、被害を最小限に抑え、速やかに事業の回復を図るための計画で、災害時の対応について役割分担、優先業務、水害対策、備蓄状況、連絡手段などについて、詳細に記載してある。また、定期的な訓練等により、計画を見直し、修正を行っている。

○利用者の方の今後の課題について

・高齢化・身体機能の低下が予想され、日中支援型グループホーム、特別養護老人ホームへの移行も視野に入れて支援を行っている。

また、生活介護事業の場合は、原則65歳までの年齢制限があり、介護サービス事業所を利用中の利用者の方との関係性を構築することや活動内容の変化に対応するまでに時間がかかるものと思われる。併せて、金額面の負担も増えていくことが懸念される。

・現在、地域住民との交流が乏しく、「顔の見える関係」が構築できていない。災害時などを想定すると、地域の中で生活していく上で地域住民との連携は不可欠であるため、この地域交流の欠如が、今後の課題であると考えている。

4 意見交換

・利用者の事業所への通勤方法についてどうしておられるのか？（民生委員）

・利用者は事業所からの送迎車を利用して通勤している。（かたかご苑）

・施設と地域との関わりの現状について聞きたい。（民生委員・市職員）

市の職員が施設を訪問する機会がこれまであまりなかった。これを機に関わりを増やしたいと思う。（市職員）

・施設側も地域にあまり知られていないことを認識している。今後地域の行事にも参加していき、知的障害者のグループホームがあることを知ってもらいたいと思う。（かたかご苑）

・災害時の避難計画についてどのように行っているか伺いたい。（民生委員）

・洪水想定での避難訓練は年に1回実施している。訓練では、ホームからかたかご苑に移動避難する手順を確認している。

・東保地区の指定避難所は般若中学校になっている。洪水時はかたかご苑の

方が高台にあるため、そちらへの避難を想定している。避難は、道路が冠水しない限りは車で移動する計画である。

・地震発生時は職員がすぐに駆けつけられない可能性を考慮し、ホーム内に備蓄品を常備している。  
(かたかご苑)

・指定避難場所は、B&G海洋センターがあり、ホームからは歩いて2～3kmの距離にある。近隣住民とのコミュニケーションや地域内での連携強化が急務である。避難場所の確認をしていただくことも必要に思う。(民生委員)

・これまでの避難訓練はかたかご苑への避難が中心だったが、能登半島地震のような道路が分断される事態を想定し徒歩で避難できる場所を確認していく必要があると考える。

ホームには6名の利用者が生活しているため、いざという時に地域住民と声を掛け合える「顔の見える関係」の構築が不可欠であると考え。今後、地域の方との交流を進めていきたいと思う。  
(かたかご苑)

・余暇活動はどのようにしているのか休日外出はしているのか伺いたい。  
(民生委員)

・休日は、近くの自動販売機に飲み物を購入しに行くことはある。地域の人に会ったら、挨拶はするように利用者の方には伝えている。冬季は購入しに出かけていない。  
(かたかご苑)

#### 5 事業所視察について

- ・利用者の方（代表利用者以外の4名）、構成員の方との自己紹介
- ・ホーム内見学（リビング・トイレ・風呂場・利用者代表の居室）
- ・服薬管理について、掲示物等について質問が出る。
- ・生活に必要な掲示物であることや装飾についてもホーム利用者が作成したものを飾っていることを説明する。